留学を終えて

長良高等学校　高山　孝介（アメリカ合衆国）

僕にとってこの１０ヶ月は、今までの人生のなかで一番早く過ぎた１０ヶ月間でした。成田空港で家族と別れ、シカゴに着き飛行機を乗り換え、一人でコロンバス国際空港まで行ったことが昨日のことに思えるくらい、今でも鮮明に覚えています。その時は、これから始まる１０ヶ月間への不安と楽しみな気持ちでいっぱいでした。

この１０ヶ月で、僕の中では、たくさんのことが変わったと思います。

今、このレポートをアメリカからの帰りの飛行機の中で書いています。思い返してみると一瞬でしたが、濃密な１年間でした。日本を離れる時、僕は何も不安がありませんでした。海外旅行に行くような気持ちで日本を去りましたが、実際はもちろん海外旅行ほど簡単なものではありませんでした。

初めてホストファミリーに会った時、当たり前のことだけど、この人たちは日本語が喋れないんだと思いました。それが当たり前だとわかっていても、その時の僕にとっては寂しく感じました。また、何か起きた時、自分には詳しく状況を伝えられる英語がありませんでした。その事実をとても悲しく思い、もし何かあった場合のことを考えると、心配にもなりました。

現地で初めての留学生オリエンテーションが、到着して２日後にありました。ホストファミリーとは早い段階から馴染めましたが、まだぎこちなさが残る頃で、完全に心を許せる状況ではありません。オリエンテーションの会場についた時、ほかの国からの留学生の英語力に驚かされました。彼らの話していることは理解できました。しかし、それにどう反応をすればいいのか、また、どのようにコミュニケーションを取るのか、僕には何の能力もなく、自分の能力にガッカリした事を覚えています。日本で英語を勉強した気になってからアメリカに行ったので、自分の英語力にはさほどの自信はありました。しかし、自分の思いを伝えることが難しかったです。

初めて高校に行った時は、友達もいなく、寂しかったのを覚えています。しかしたまに話しかけてくれる人がいることが、せめてもの救いでした。僕はいろいろな人に、自分は写真を撮る事、動画を撮る事が好きだと言うことを伝えました。そうすると、自分の周りに人が増えていきました。僕の下手な発音と文にもなっていない会話でも、僕の話を聞いてくれました。その時は本当に嬉しかったです。それからは、放課後は友達の車に乗り、いつも写真を撮ったり、動画を撮ったりしていました。そこで初めて、僕はこのようなことを仕事にしたいと思いました。自分の好きなことを見つけることができました。それからは、動画をたくさん作り、写真もたくさん撮りました。そうしていると、ホストブラザーのバンドにフォトグラファーとしてツアーに行かないかと言う話が舞い込んできました。その時はすごく嬉しかったし、バンドとツアーを回ることは本当に楽しかったです。それからは、ホストブラザーの友達の音楽スタジオの撮影をし、友達の

紹介でオハイオの州都であるコロンバスのフォトグラファーにも沢山会えました。彼らと一緒に写真を撮りに行くことは、ものすごくいい経験になりました。

学校では、映像や写真のクラスをとって、そこでもたくさん友達ができました。アメリカの高校生は自分がしたいことをすぐに行動に移します。友達の中には自分でトラックを作ってアップロードしている子も沢山いたので、そういう子たちに頼まれてCDのジャケットの撮影をしたりしました。そのような、自分が本当にしたいことをしている時は、本当に楽しかったし、どんなに忙しくても、編集や撮影などができました。そういった環境で生活している中で、僕も自分の本当にしたい事を追求しないといけないなと思いました。

日本の社会では、普通であることが大切にされますが、もっと自分のしたいことを明らかにして、それを自分でストイックに追求することが、自分の将来や幸せに繋がると思います。これからアメリカで学んだことを活かして日本でも生活していきたいと考えています。